

殿ヶ谷の山車

瑞穂町有形民俗文化財

所在地：瑞穂町殿ヶ谷 1034 番地 2



殿ヶ谷の山車は、その経緯について、明治 15 年（1882）頃に砂川村（現在の立川市の一部）の九番組から購入された説、安政年間（1854~1859）に地元で建造後、まもなく砂川九番組に売却し、後に明治 15 年頃に戻したとの説があります。山車の様式は、一本柱単層唐破風屋根人形山車で、梁間一間、桁行二間造りの構造となっています。一本柱を後方から建てるために、棟は中央より後方にかけて分かれています。このように一本柱を建てる方式を「後建て方式」と呼び、多摩地方で多く見られます。

建造した大工はわかりませんが、右脇障子鏡板に「入間川村^{こうだおうみ} 甲田近江源^{みなもとのたかし} 高壽彫刻」とあります。山車の様相として、まず鬼板・懸魚^{げぎょ}に施された「三匹竜」が目を惹きます。また囃子舞台の天井には、部分彩色による墨絵の「雲竜図」が描かれています。